

インターバンクの声（2017年4月17日）

欧米やアジア市場の多くが復活祭のため週末と週明け17日が休場になることや、15日に北朝鮮が故金日成主席の生誕105周年祝賀行事に合わせて、ミサイル発射などを実施するのではとの懸念もあって、週末海外の外国為替市場の値動きは限定的だった。

ドル円が一度だけやや大きめに動いたのが3月の米小売売上高と消費者物価指数がともに市場予想を下回る内容で発表された後だった。小売売上高は2ヵ月連続で減少し、特に自動車の購入が減ったのが響いた。

消費者物価指数も昨年2月以降、初めて前月比で低下、食品とエネルギーを除いたコア指数の前月比も2010年1月以降で初めてマイナスとなった。

これらの数字が来月も弱いようだと6月の利上げの可能性が低下すると思われるが、3月の数字だけでは判断は難しい。

シリアや北朝鮮をめぐる地政学的リスクも残り、米財務省が発表した半期外国為替報告書では日本も引き続き「監視対象リスト」に入り、円相場が過大評価である証拠はないと円安もけん制されている。ドル売りポジションを小刻みに買い戻すような小幅反発はあるが、ドルの上値が重い状況に変化はない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。